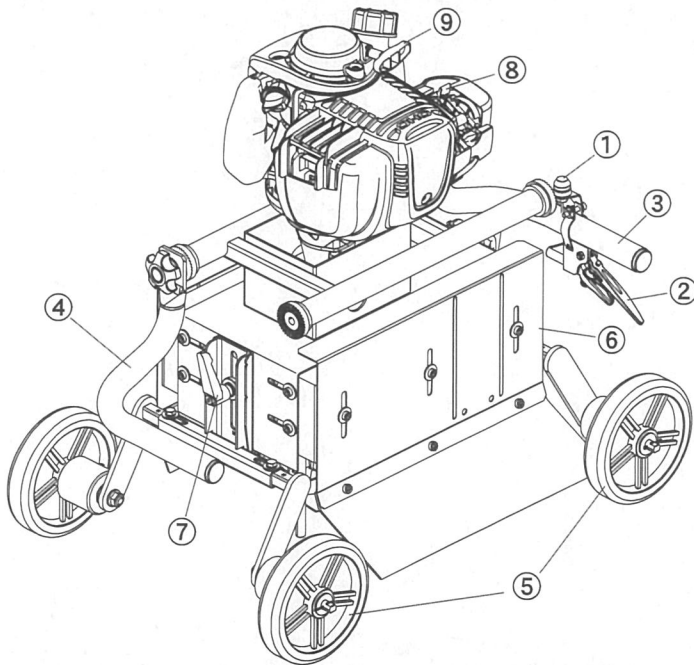
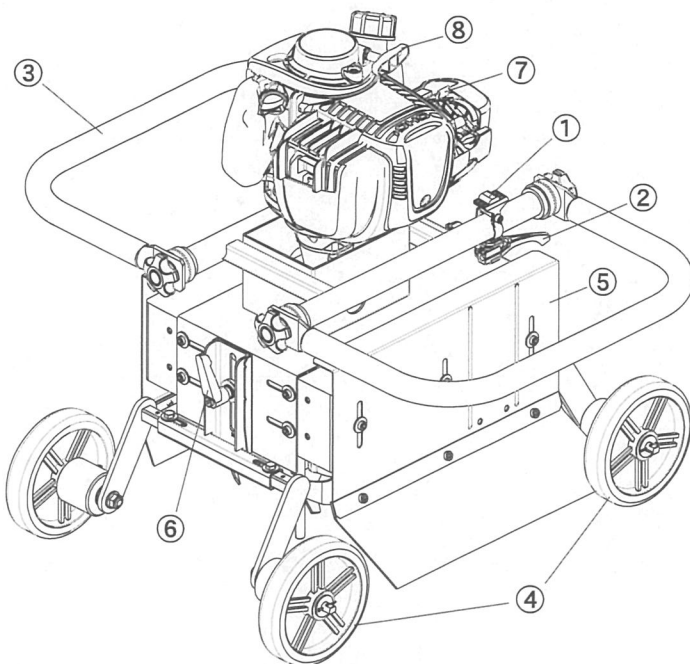


各部の名称



- ①ストップスイッチ
- ②スロットルレバー
- ③ハンドルR
- ④ハンドルL
- ⑤車輪
- ⑥サイドカバー
- ⑦クランプレバー
- ⑧チョークレバー
- ⑨リコイルスターター

型式	排気量	全長×全高×全幅※1	重量	耕耘幅	耕耘深さ		対応ベッド幅
					取付上	取付下	
CLA-351	35cc	630×590×380mm	20.8kg	175mm	7～94mm	47～134mm	310～390mm



- ①ストップスイッチ
- ②スロットルレバー
- ③ハンドル
- ④車輪
- ⑤サイドカバー
- ⑥クランプレバー
- ⑦チョークレバー
- ⑧リコイルスターター

型式	排気量	全長×全高×全幅※1	重量	耕耘幅※2	耕耘深さ		対応ベッド幅
					取付上	取付下	
CLW-351	35cc	630×590×650mm	23.3kg	175/240mm	7～94mm	47～134mm	310～390mm
CLW-351N	35cc	630×590×650mm	23.9kg	175/240mm	29～116mm	69～156mm	370～510mm

※1：ハンドルは使用状態、車輪、カバーは最小状態の寸法になります。

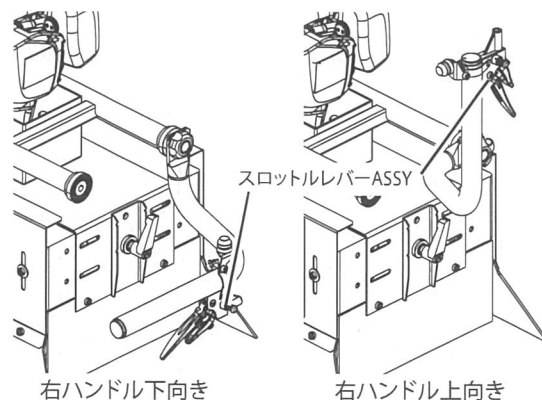
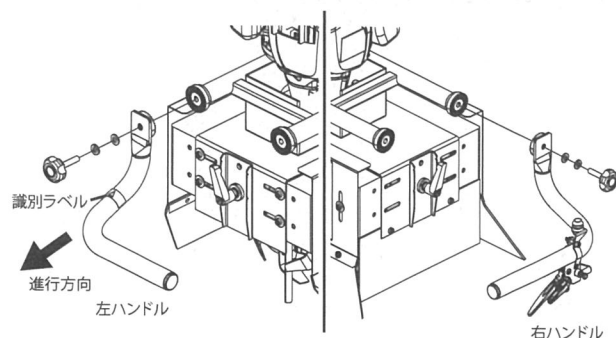
※2：標準耕耘幅は240mmとなります。延長ツメザを取外すと175mmの耕耘幅となります。

使用準備

1. ハンドル組付け (CLA-351)

ハンドルL・Rをノブボルトを外して組付けてください。進行方向前側がハンドルL、後ろ側がハンドルRになります。

ハンドルRにスロットルレバーを取り付けてください。ハンドルの向きによりスロットルレバーの組付け方向は変わります。スロットルワイヤーが余る場合はスロットルレバーを本体に固定していたバンドを使用して本体ハンドルフレームかハンドルRに固定してください。



2. 本体調整

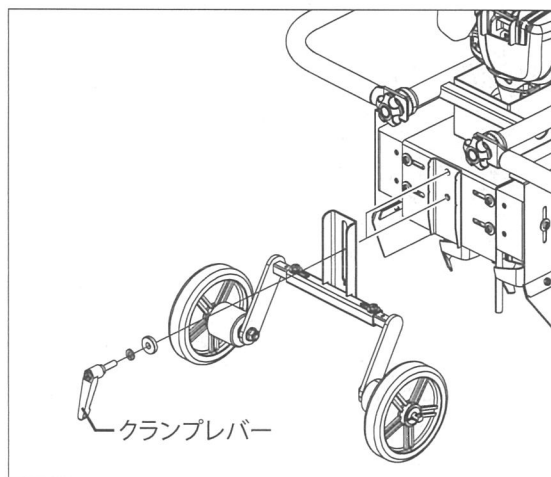
ご使用になるベッドに合わせて、車輪幅、耕耘の深さ、サイドカバーの幅ハンドルの位置を調整してください。

※横と後方のカバーゴムが引っ掛かる場合は、ベッドに合わせて切断してください。

車輪はクランプレバーを組付位置により耕耘深さを変更する事が出来ます。クランプレバーは収納袋に入っています。フレーム上側の取付穴に組付けると耕耘深さが深くなり、下側の取付穴に組付けると浅くなります。

注意

深すぎるとベッドを傷つけるおそれがあります。

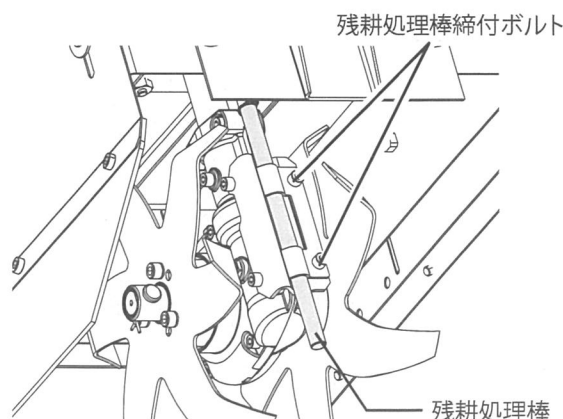


3. 残耕処理棒

中央の残耕を残したくない場合は、残耕処理棒の長さを調整して使用してください。

※残耕処理棒を長くし過ぎると抵抗が大きくなり管理機が前進しにくくなります。

残耕処理棒を使用しない場合は土に触れない位置まで上げて固定してください。



4. ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発し死傷事故を引き起こすことがあります。

ガソリンを補給する時は

- ・エンジンを停止してください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。

静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し火傷を、負うおそれがあります。

本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。

- ・ガソリンをこぼさないように補給してください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- ・燃料は注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を越えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

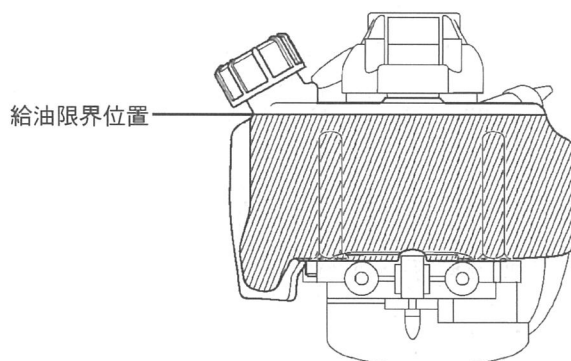
《点検》

燃料タンクの外側より液面の位置を確認し、燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。

《補給》

使用燃料:自動車用無鉛レギュラーガソリン

- ・燃料給油キャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差を取り除きます。
- ・補給後、給油キャップを完全に締め付けてください。また、給油キャップ取り付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

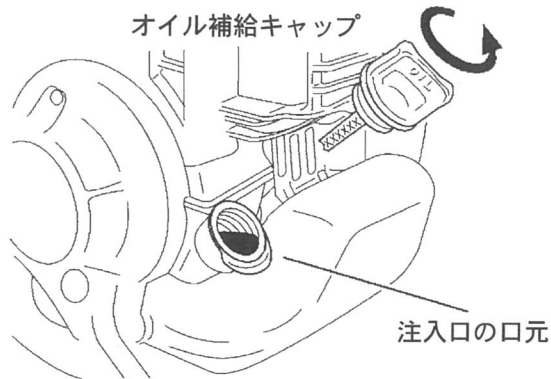


取り扱いのポイント

- ・ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。
- ・高濃度アルコールを含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを破損する原因となります。
- ・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

5. エンジンオイルの点検

- ・エンジンを水平にし（図の様に本体を倒します。）オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。不足している場合は、口元まで補給してください。
- ・汚れ変色が著しい場合は交換してください。



上限（エンジンが水平で、注入口の口元）

《推奨オイル》

4サイクルガソリンエンジンオイル

HONDA純正 ウルトラU汎用（SAE10W-30）またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

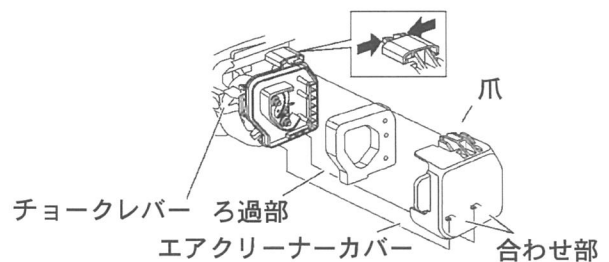
《オイル容量》 0.08ℓ

取り扱いのポイント

- ・エンジンを連続運転する場合、10時間運転毎にエンジンオイルの点検、補給を行ってください。
- ・エンジンオイルの補給はオイル容量が小さいため、少量に分け注入してください。
- ・オイル補給キャップは確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

6. エアクリナー（空気清浄器）の点検

- ・チョークレバーを上げ、エアークリーナカバーを外して、ろ過部(ウレタン)汚れていないか点検します。エアークリーナカバーの取り外しは、爪の両端をつまみ手前に倒し上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。汚れがひどい場合は清掃をしてください。
- ・ろ過部(ウレタン)が汚れているとエンジン性能が低下します。



7. 各部の締付け状態の点検

各ボルト、ナットにゆるみがないことを確認します。
ボルト、ナットにゆるみがある場合は確実に締め付けてください。